

連合町内会だより

盆行事の中止について

深町連合町内会

文化部長 安藤 志保

6月末に執行部会を開き、今年度の盆行事開催を見合わせることにさせて頂きました。

4月総会の時点で「中止の可能性」についてお伝えしていましたが、新型コロナウイルス感染症の状況を考えると、安全に開催することが難しいという判断に至りました。

2018年は豪雨災害のため、2019年は台風のため、2020年はコロナのため中止となり、今年で4年連続して開催できないことは、なんとも残念でなりません。

行事を開催することに伴う役員負担は大きく、これまでご尽力いただいたところですが、負担軽減を求める声もあります。行事を担うことで培われる「地域力」は決して小さくありません。

普段あまり意識することがなくても、防災や防犯など困り事が発生した際に問われる「地域力」。恒例行事ができない中で、何かできることはないかと頭をひねっています。

日本全国で進む人口減少と高齢化。深町もその例外ではありません。町内会が「転ばぬ先の杖」の役割や、転んだ時の「絆創膏」の役割ができることが「地域力」なのかなと考えています。

なかなか出掛けづらいコロナ禍の中、「地域力」について思いを巡らし、それぞれの意見を寄せさせていただきます。

andoshiho@gmail.com
090-5265-3855
(安藤まで)

深町子どもを守る会

子どもをみんなで見守りましょう。

深小の子ども



○全校登校日は、六・二三日です。

○午前十一時過ぎに下校します。

○近くで、遠くで、みんなで見守りましょう。

○あいつ

高かたききょうじょう。

第二中学校だより

中学生になって

一年 北迫 啓太

ぼくは、中学生になって最初は、クラスに友達いるかなと思っていたけど、何人かいたので、ラッキーと思えました。

入学式は、2、3年生の先ばいはいかなかったけれど、とてもきんちょうしました。



中学生になってがんばりたいことは、部活と勉強を両立させることです。部活は、何部に入るかわからないけれど、(たぶん、サッカー部か、たつきゆうかテニス)どの部に入ってもがんばりたいです。勉強は、姉のせいせきをぬかせるくらい勉強をがんばりたいです。じゅうじゅうした学校生活を送るために、できるだけ友達を多くつくって楽しい学校生活を送りたいです。なので、積極的に交流したいです。友達の輪に入れるようにしたいです。できるだけ、忘れ物を少なくするために、朝にもつていく物のチェックをしたいです。あとテストも難しいので、テストの予習や習ったところのふく習をしたいです。

「中学生になって」

一年 谷口 華音

この春、小学生から中学生になり、私にはこれからはがんばってほしいことが二つあります。一つ目は、友達をつくり明るく接していくことです。

理由は、前まで生徒の数が少ない深小学校に通っていたので、いきなり生徒の数が第二中学校に入ると、知らない人たちがたくさんいて、友達が少ないからです。それに私は人見知りをしてしまうので、明るく接して友達をつくり、友達を大事にしていきたいです。

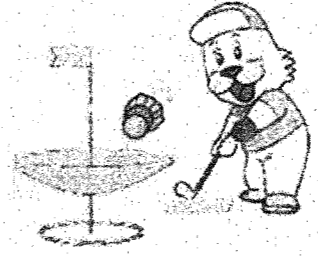


「ふかまちのまど」ホームページのアドレスは
<http://www.jcat.ne.jp/~fuka/top.html>

二つ目は、何事にも手をぬかずに取り組むことです。理由は、中学校では勉強が難しくなり、部活動が新しく始まるからです。そして、行事も増えるので、なげやりになってしまわないように何事にも手をぬかず、全力で楽しみたいのです。

TBG協会より

令和三年六月三原市月例ターゲット・バードゴルフ大会



三原市TBG月例大会が、六月二十六日(土)に十五名の参加で、深町・城山コースにて行われました。

- 成績は次の通りです。
- 一位 金子 勝彦
 - 二位 井上 キヨコ
 - 三位 天木 雅之
- ベスグロ六十五
- 金子 勝彦
- ホールインワン
- 井上 幸子
 - 平木 タエ子
 - 笠井 隆三
 - 屋敷 猛

令和三年七月三原市月例ターゲット・バードゴルフ大会

三原市TBG月例大会が七月七日(土)に十五名の参加者で深町・城山コースにて行われました。

- 成績は次の通りです。
- 一位 林 洋祐
 - 二位 田中 好康
 - 三位 石井 張司
- ベスグロ七十三
- 林 洋祐
- ホールインワン
- 笠井 隆二

- 二人戦
- 一位 金子 勝彦
 - 笠井 隆二

次回大会は八月二十二日(日)に行います。

※選手の敬称略

TBG協会 会長 船本 雄三

謹んでお悔やみ申し上げます

- 小川 加代子 様 八十六歳 (中組 千川講) 七月五日
- 為 清 智 紀 様 九十七歳 (上組 清国講) 七月十五日
- 助 永 アキミ 様 九十六歳 (下組 四班) 七月十六日

深町各種団体八月行事予定

- ◆連合町内会
- ▼盆行事 中止
- ▼ちんこんかん 中止
- ◆中組町内会
- ▼二十三夜法要(法要のみ) 二二日
- ◆小学校
- ▼全校登校日 六日
- ▼全校登校日 一三日
- ▼スクールカウンセラー 二五日
- ▼PTA環境整備作業 二九日
- ◆如水館中学・高校
- ▼中期夏期講習 二〇六日
- ▼始業式 三〇日
- ▼面談・身だしなみ週間 三二〜九・三日

お詫びと訂正
七月号で小学校終業式を、一八日と記載致しましたが、二〇日に訂正させて頂いたできます。

買い物レシート投函のお願い

三原市TBG協会 会長 船本 雄三

今年も暑い夏がやってきましたが、皆様には日々健やかに過ごしていただいていると思います。平素よりターゲット・バードゴルフ協会へ、格別のご支援をいただき有難うございます。

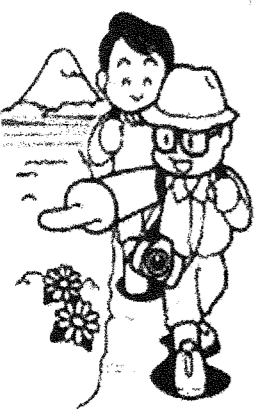
この度、ニチエー中之町店舗様のご厚意により、コミニティボックスを8月から設置しています。お買い物の際、レシートをTBG協会のボックスへ投函していただければ幸いです。

お手数をおかけしますがよろしくお願いたします。

歩く会にご参加を

歩く会幹事

石井 堂照



八月は休みます。

深町町内会連合会 深郷土誌編集室

文・高崎 壽郎 絵・船本 輝明

堂さん巡り(一)

II 堂の呼称と城之元流野堂 II

堂は一般的には辻堂と呼称する。堂、お堂、み堂、四つ堂ともいい、備後地方の一部では休み堂、憩い堂、憩亭と呼ぶものもある。深では昔から「堂さん」といつていたようだ。

勸請されていた地蔵、その他の民間信仰などから、虚空堂、薬師堂、大師堂、観音堂、地藏堂、庚申堂、妙見堂、毘沙門堂、阿弥陀堂などと呼ぶものもある。また深では、地名を冠して千川堂、峠堂といった堂もある。

流野堂は中組城之元にあり、木造寄せ棟作りカワラ葺。本尊は地藏菩薩で、石仏九体(丸彫坐像一、船形坐像八)と自然石(天地神の文字)一体から成る。一昨年、本尊のすぐ後ろから創建当時の棟札がみつかった。

開眼導師入道善道彦屋科蔵 奉建土地蔵堂(守) 長壽寺住持 大工貞吉 文政五年(天保三年) 同 百兵衛

この棟札からわかること。堂創建は文政五年(一八二二)で、今から一七七年前である。頼杏坪が芸藩通志を編集するために、各村の庄屋にその資料を提出させたのが、文政二年(一八一九)であった。深で一番古い地図はその時提出したものだが、それにはこの堂は載っていない。わずかに三年のことだ。開眼導師は大通寺六代の秀道住職である。

当時村は庄屋、組頭、長百姓が治めていた。深村は、上・中・下と三つの組に分かれているので、庄屋一人、組頭三人、長百姓三人の計七人が村役ということになる。いわゆる「村方三役」である。

余談だが、二十三日を廿三日と書いてある。古文書には二十を廿、三十を卅、四十を卌と書いた例もある。

一枚の棟札でも、残しておくといろいろなことがわかり興味深い。この堂には、あと四枚の札が打ち付けてあるが、堂改修の記録である。一枚は建立時の寄進札であり、あと三枚は明治二八年(一八九五)と昭和二五年(一九五〇)と平成一〇年である。



城之元(田原講)流野堂の石佛

明治二八年の改修では、当時ぼつぼつ普及しだした瓦を使って屋根葺をして、平成一〇年は床板を有志で張り替えた。ケヤキ材の立派なもの。この堂は、どんなことに利用されてきたんだろう。終戦前後頃までは、八月二〇日の地藏盆に信者が集って会食し、盆踊りを楽しんだそうである。今はその風習はすたれた。

また、以前はよく行商が、ここから大声で声掛けし商売をしていた。今は、講中や水掛りの人が集まって、いろんな相談をする寄り合いの場所となっている。ところで、深の堂さんで一番よく利用されていると思われるのが、この流野堂である。

それは、堂の前が通学路になっていて、幼稚園や小学校の子どもが、帰途よく立ち寄って休むからである。ほとんどの子が、なかには、「お地藏さん、ちよつと休ませてください。」とか、「お地藏さん、さようなら。」と手を合わせている子もいる。子どもは合掌する姿、これ程尊く心をうつものはない。

堂の歴史はつまびらかではない。寺院が、それぞれの宗派に属する僧を願主として建てられ、それぞれの宗派に属しているのに対して、堂は、宗派とはかわりなく、そのほとんどが無住で、仮に願主があつて建てられたものでも、村人が管理しているものが多い。つまり、村人がかかって仏教を受け入れた一つの姿であつて、村人にとつては何宗であつてもよく、またそこにもまつられたものがどんな仏であつてもよかった。

堂さん巡り(二) 寺沖虚空堂 II

堂は村人が集まる場所として大切であり、また村が村として結合していく場合に、そういう場所を必要としたのである。このように堂は、新しい仏教が民衆の間に浸透していった十三世紀の初め頃から発展していったものと思われ、その頃描かれた絵巻物にそれを見ることできる。塚の堂は上組辰巳にあり、木像切り妻造りカワラ葺。本尊は地藏菩薩で、石仏二体(丸彫坐像・船形坐像各一)がある。堂は、一間一歩四方で、昭和十一年(一九三六)九月再建し、辰巳・清国講の管理。昭和五十二年(一九七七)五月瓦葺屋根にする。以前は、年に一回は会食し、地域のコミュニティシヨンの場となつていた。

堂は辰巳の稚子峠口にあり、この道(中世の山陽道)を行き来する旅人の休憩所となつていたことだろう。虚空堂は上組寺沖にある。曹洞宗金剛寺の近くで、寺の古い絵にもでていいる。本尊は、木原の鉢が峰寺と同じ虚空蔵菩薩で、木像二体(丸彫立像)と石仏三体(船形坐像)から成る。木造寄せ棟造りで、屋根は平成三年(一九九一)八月修理でトタシ葺。

虚空蔵菩薩は、衆生に福徳を与え、智慧を授けてくださる仏像で世の人は、「脳神様」と仰いで崇拝する。又、かさ、いぼなどのでき

ものは、虚空堂に治療祈願したという。管理は、高下・西側講が当たり、輪番で世話をしておる。元旦には灯明をあげ御詣する。堂内に棟札らしきものがあつたのでみると、井堰の時間水表であつた。今は、道づくりや水番の相談などで、この堂を利用している。三戸坂(御調坂)を超えてきた人が、この堂で一息ついたことだろう。

堂によつて、奉納されている石仏の数は違う。本尊は別として、他の石仏や仏体は、家族の無病息災、家業の繁栄、祖霊の供養などを祈願して、個人や一家一族が奉納したものと思われる。

建築資材は、四本柱は栗松などの角材を用い、屋根はすべて草葺きであつたが後に瓦、トタンなどで修復または改築するものが多くなつた。この時、寄せ棟造りから切り妻造りになつたものもあるようだ。山村の堂は、負い荷をおろしてゆつくり休めるように、床の高さを案配し、堅牢な造作となつたものもある。(御調坂の八幡との村境の堂はその例)

沖成瀬地藏堂は、以前上組地藏山の山腹にあつた。今は地藏屋敷跡として残る。ここは、農道からも見え易い所で、人々は遠くからでも朝夕の拝礼を欠かさなかつたことだろう。現在の地藏堂は、平成元年(一九八九)十二月に成末豊さんが宅地内に移転再建された。管理は成末さん一家。

堂さん巡り(三) II 堂の構成と沖成瀬地藏堂 沖成瀬観音堂 II

堂の構成は、深の場合多くが一間一歩四方で、四本柱を建て寄せ棟造りで、屋根は草葺き床は板張りだつた。どの堂も、周囲は壁をつけず吹き抜けの方形堂となつており、建物全体は「高倉」に類似している。各種民間信仰に關係する堂は、奥側に石仏その他の仏体を安置したり、供花等の祭壇を設けており、その部分だけ板や土壁等で囲つたものもある。



金剛寺(田野浦)の火渡神事

堂さん巡り(三)

新しく、重量感のある立派な「堂」である。沖成瀬観音堂は、上組西昌弘さんの裏山にある。木造寄せ棟造りカワラ葺。以前は道路脇にあつたが、破損激しくなり、昭和五年(一九三〇)に現在地に移転。堂守りは西義輝さん。本尊は、明治十三年(一八八〇)の堂守の調査で、十一面観音菩薩となつていたが、実際にみて吃驚した。「歓喜天」である。いつ頃かわからないが、本尊は入れ換わつたらしい。大辞泉によると、「歓喜天」とは、頭は象、身体は人間の姿をした仏法守護神。もとインド神話の魔王で、のち仏教にとり入れられたもの。単身像とあり、双身像は、男神と女神が抱擁する姿をとることが多い。夫婦和合、子宝の神として信仰される。」とある。 つづく



- 深の堂さん
- ① 虚空堂
 - ② 虚空堂
 - ③ 虚空堂
 - ④ 虚空堂
 - ⑤ 虚空堂
 - ⑥ 虚空堂
 - ⑦ 虚空堂
 - ⑧ 虚空堂
 - ⑨ 虚空堂
 - ⑩ 虚空堂
 - ⑪ 虚空堂
 - ⑫ 虚空堂
 - ⑬ 虚空堂
 - ⑭ 虚空堂
 - ⑮ 虚空堂

〇印は 文政二年(1819) 建立のもの